

◎ 第107回定例研究会

1月14日(木)

於:静岡県評会議室

韓国の保守的政党システムと 「直接行動」の意義と限界

報告者:安 周永 氏 (常葉大学)

●はじめに

日本と韓国においては、政権交代が行われたにもかかわらず、政党政治が混迷している状況があります。韓国では2008年に、新しい市民参加の運動として「ろうそくデモ」が登場しました。6月10日には全国で100万人が参加したと言われています。日本でも、反原発デモや戦争法反対のシールズ等の運動が注目されています。このような直接行動が、政党政治にどのような影響を与えたのかを、韓国の事例で検討します。

●直接行動をめぐる論争

直接行動とは「政府あるいは企業のような権力のある集団に圧力をかけるための手段の1つであり、その手段としては納税拒否、ストライキ、不買運動などの協力や支持の撤回と、市民的不服従のような特定の法律に対する挑戦や物理的阻止」であると定義されます。直接行動による政党政治の変化については、日本ではまだほとんど研究されていません。

●韓国政党システムの特徴

韓国では1987年の民主化以前は反共主義が中心で、親米、反北という特徴でした。民主化以降は地域主義が激化し、民主化以降も権威主義的政治慣行は残存し、その除去が政治的課題でした。労働問題と福祉問題は政党の争点とはなりません。残存していた権威主義的政治慣行の清算(2000年、2004年落選運動)が市民運動によって行われましたが、新ビジョンの提示には至りませんでした。

●2008年の「ろうそくデモ」の特徴

このような中、牛肉輸入に対する抗議として「ろうそくデモ」が行われました。最初は少数の運動でしたが、急速に大規模な抗議行動に発展していきます。その特徴としては以下の点があります。

- 1) 一般市民の呼びかけ + 市民団体のサポート
- 2) インターネットとSNSの積極的な利用。
- 3) フレーム(枠組み)の多様化(食の安全だけではなく、民主主義の危機、公共性の危機)

●政党政治の変化

2008年の「ろうそくデモ」後の選挙では、2010年地方選挙、2012年国会議員選挙、2012年大統領選挙と投票率がすべて上昇しました。特に10代から30代の若者の投票率が上がっています。

また政党の対立軸も変化が生まれました。民主党(民主統合党)の綱領には、普遍的福祉の保障や「ろうそく民意の継承」が謳われました。ハンナラ(セヌリ)党も、福祉体制の構築や経済民主化を掲げました。

しかし2012年大統領選挙でセヌリ党の朴槿恵候補が勝利すると、民主統合党は「ろうそく民意の継承」を削除し、セヌリ党も福祉政策と経済民主化に関する公約が後退しました。

●政党政治の変化の可能性

「ろうそくデモ」は、国民(特に若者)に政治への関心呼び起こし、政党が争点にしなかったものを争点化しました。直接行動の持続可能性や、政党の自助努力を含めて研究が必要です。